

平成 27年 4月 30日 00219号

編集者:佐藤 寿春

北見武道通信

北見市幸町 8丁目 4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

satou.toshiharu@navy.plala.or.jp

ニュースレター【武道館情報】

窓ガラス越しのけいこ風景

～2階南側通路(強化ガラス越しに)～



窓ガラス越しのけいこ風景第4回目は、北見市武道館の南側(道立体育センター側)に設けられた道場1(合気柔術・武道の稽古風景)を二階南側通路より紹介します。前回同様、二階の通路は道場3を正面に左右(北南)に分かれ設けられています。通路幅は約170×奥行30メートルと避難通路と

なっています。その先には非常用扉となっていますが、これまでに使用されたことはありません。二階からの観覧により道場を一望でき、応援に来る父母・引率者に大変喜ばれています。

【柔道情報】 北見練心会杯全道少年少女柔道大会開催!

4月25日(日)午前9時より北海道立北見体育センターメインアリーナを会場に第37回北見練心会全道少年少女柔道大会が開催されました。当日は、全道各地から多くの少年団が参加し熱戦を繰り広げていました。地元北見地区の選手も活躍しました。当紙面でも何度か紹介しています北見なかざわ塾柔道少年団所属の中澤完太くんは順調に勝ち続け、全て(団体・個人戦)一本勝で見事個人優勝を決めました。



連載 「武道宝鑑」第2弾 磯貝 一 <柔道指導の心得>

二、指導上に心得べきこと

○修行の原則 2

もともと寝技は、敏速の活動が立ち技より少なく、随って修行は左程困難ではないが、投技の方はなかなか微妙な呼吸が在って、それを体得するにはなかなか骨が折れる。一口に云えば投げ技の方が修行が難しいのである。従って投げ技に主力を注ぐことが、すべての技を大成せしむる所以で、先ず投げ技から修行させなければならないことが解る。而してまたその投技に於いても、主として練習せしむべきは腰技である。もとより、足技も練習すべし、手業も練習すべきだが、何れの技も體のしまりは腰にあるのである。腰が根本なのである。だから腰が決まらなると、手技も足技もまた捨身技も十分上達することは出来ぬものである。腰技で十分腰を鍛えて置きさえすれば、いつの間にか手技も足技も上達するようになるのものである。然しこれは、原則的に、指導者が考えて指導することであって、初めから足技がきく人の足技をやめさせてしまつてまで腰技をやらせるというのでなく、また始めから手わざのきく人を無理にその技を封じて腰技をやらせるという意味ではない。夫れ等の個人的特徴はどこまでも伸ばして行きつつ、而も腰技も十分に鍛らせる事が、その足技手技をも上達せしむる所以だという意味なのである。つづく